

2019年度(2020年3月期)の概況

シャープ株式会社及び連結子会社 3月31日に終了した各連結会計年度

2019年度の実績

世界経済は、COVID-19の世界的な流行もあり、年度末にかけて、極めて厳しい状況となりました。

こうした中、シャープは、事業ビジョン「8K+5GとAIoTで世界を変える」の実現に向け、全社一丸となって、Transformationを推進しました。8K+5GやAIoTを軸とする特長製品・デバイス・技術の創出や、それらを梃子としたサービス・ソリューション事業の強化、グローバル5極体制の構築に取り組むとともに、経営体質の強化を進め、業績面では、最終黒字を確保することができました。

2019年度の売上高は、ICTが増加した一方で、スマートライフと8Kエコシステムが減少し、2兆2,712億円(前年度比5.4%減)となりました。営業利益は、スマートライフが増加したものの、8KエコシステムとICTが減少し、527億円(前年度比37.3%減)となりました。経常利益は555億円(前年度比19.5%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は、161億円の投資有価証券評価損を計上したこともあり、209億円(前年度比71.8%減)となりました。なお、COVID-19によるマイナス影響は、売上高で約1,780億円、営業利益で約360億円ありました。

また、希薄化リスクや優先配当などを有するA種種類株式10万8千株を全数取得・消却するなど、資本の質の向上にも取り組みました。

普通株式の年間配当につきましては、財務状況や今後の事業展開などを総合的に勘案し、1株当たり18円の配当を実施しました。

世界経済は、COVID-19もあり、年度末にかけて、極めて厳しい状況となる

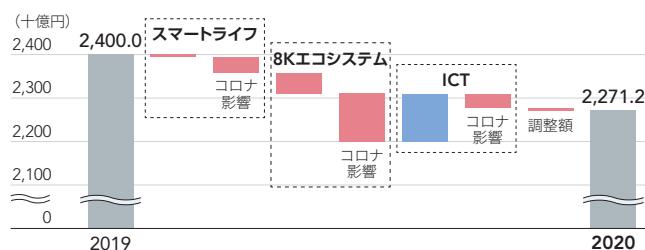
シャープでは、全社一丸となってTransformationを推進

通期での最終黒字を確保

A種種類株式の全数取得・消却など、資本の質的向上にも取り組む

売上高 増減分析

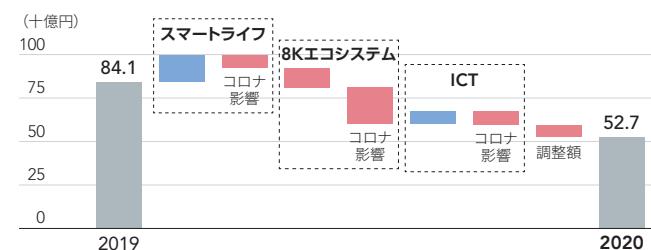
セグメント別



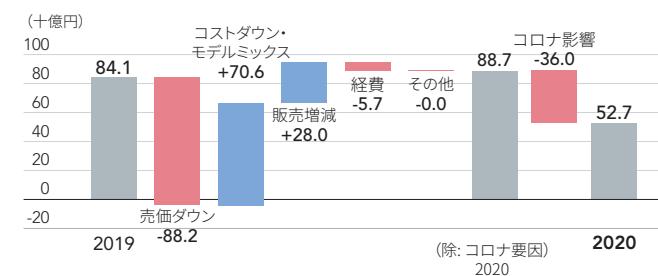
AIoTはシャープ株式会社の登録商標です。

営業利益 増減分析

セグメント別



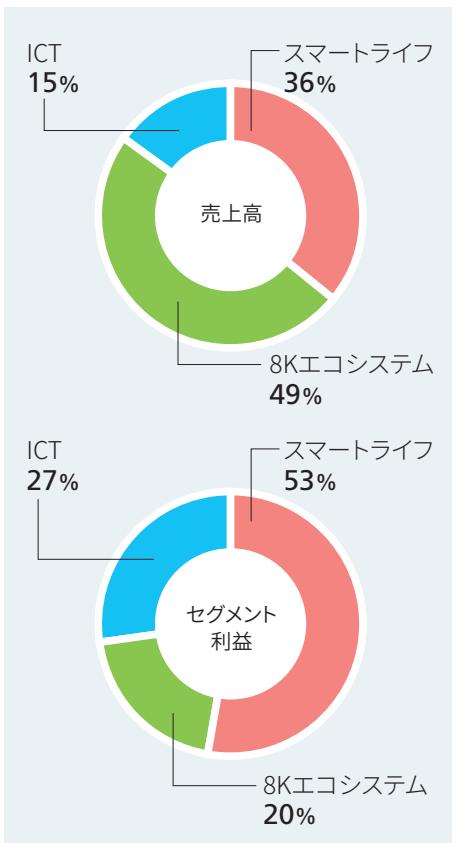
要因別



(除: コロナ要因)
2020

2019年度(2020年3月期)の概況

セグメント別売上高・営業利益



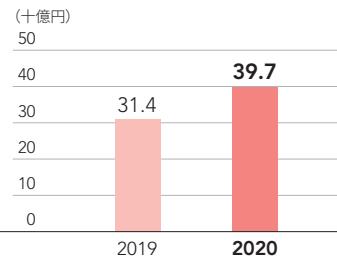
- ・売上高は、セグメント間の内部売上高または振替高を含んでおり、円グラフの売上高構成比は、これを基に算出したものです。
- ・セグメント利益はセグメント間取引の調整前の金額です。円グラフのセグメント利益構成比は、これを基に算出したものです。
- ・2020年3月31日に終了した連結会計年度より、セグメント区分を変更しております。これに伴い、2019年3月31日に終了した連結会計年度についても、変更後のセグメント区分に基づき表示しています。

スマートライフ

■売上高



■セグメント利益



冷蔵庫、過熱水蒸気オーブン、電子レンジ、小型調理機器、エアコン、洗濯機、掃除機、空気清浄機、扇風機、除湿機、加湿機、電気暖房機器、プラズマクラスターイオン発生機、理美容機器、電子辞書、電卓、電話機、ネットワーク制御ユニット、太陽電池、蓄電池、カメラモジュール、センサモジュール、近接センサ、エセンサ、ウエハファウンドリ、CMOS・CCDセンサ、半導体レーザー等

2019年度の業績

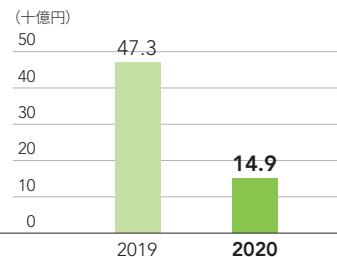
エアコンや冷蔵庫、洗濯機などの白物家電の販売が増加したものの、COVID-19の影響などにより、デバイスの販売が減少したことから、スマートライフの売上高は減収となりました。セグメント利益は、コストダウンの効果などにより、増益となりました。

8Kエコシステム

■売上高



■セグメント利益



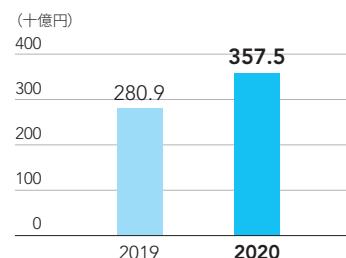
液晶カラーテレビ、ブルーレイディスクレコーダー、オーディオ、ディスプレイモジュール、車載カメラ、デジタル複合機、インフォメーションディスプレイ、業務プロジェクター、POSシステム機器、FA機器、各種オプション・消耗品、各種ソフトウェア等

2019年度の業績

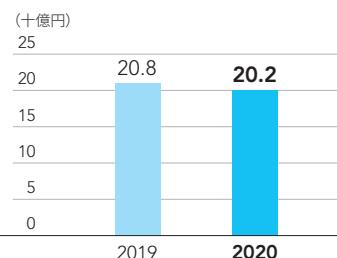
PC・タブレット向けディスプレイが伸長した一方、液晶テレビやスマートフォン・車載向けディスプレイの販売が減少したことから、8Kエコシステムの売上高は減収となりました。セグメント利益は、売上が減少した影響もあり、減益となりました。

ICT

■売上高



■セグメント利益



携帯電話機、パソコン等

2019年度の業績

通信事業の売上は減少しましたが、Dynabook株式会社を連結子会社化した効果があり、ICTの売上高は増収となりました。セグメント利益は、通信事業の売上が減少したことから、減益となりました。